

登録コード:MH261400 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	臨地実習【20M・21M】 Clinical Training			
担当教員	山内 一由			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/4年 前期(集中) 集中・不定期			
単位数、講義室	7 単位		遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	非該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		検査値の異常値がでる機序を理解する	
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。		グループ実習を通じて協働する能力を身につける	
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。		検査異常値のでる機序を形態学的・機能学的に理解する	
授業で学べる「テーマ」	地域運営、健康長寿、キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	臨地実習として実施する。 信州大学医学部附属病院 臨床検査部（検体検査部門 3 週，病理検査室 1 週，遺伝子・染色体検査室 1 週，微生物検査室 1 週） 信州大学医学部附属病院 輸血部 1 週 信州大学医学部附属病院 尿一般検査室・内視鏡診療部・血液浄化療法部・臨床工学部・長野県立こども病院 臨床検査科 1 週， 信州大学医学部附属病院 生理検査室・眼科・耳鼻咽喉科・薬剤部 2 週 松本市立病院 検査部（臨床検査・放射線科）・諏訪赤十字病院 検査部・大町総合病院検査科 1 週 信州大学医学部附属病院 生殖医療センター/信州がんセンター・まつもと医療センター 臨床検査科・安曇野赤十字病院 検査部 1 週 臨地実習は、委嘱医療機関の実務経験を有する臨地実習委嘱講師が実習指導を行う。 1年次から行ってきたすべての講義・実習の集大成となります。			
授業計画	学内講義・実習、ガイダンスなどを 3 週間実施 臨地実習検査室と担当教員は以下のとおりである。 附属病院臨床検査部検体検査部門生化学検査（山内） 附属病院臨床検査部検体検査部門免疫血清検査（山内） 附属病院臨床検査部検体検査部門血液検査・採血室（樋口） 附属病院臨床検査部微生物検査室（松本） 附属病院臨床検査部遺伝子・染色体検査室（松田） 附属病院輸血部（新井） 附属病院臨床検査部病理検査室（木村・太田） 附属病院臨床検査部一般検査・内視鏡診療部（太田） 附属病院臨床検査部生理検査室（矢崎・安尾・平） 附属病院血液浄化療法部・臨床工学部（安尾） 附属病院眼科・耳鼻咽喉科・薬剤部（矢崎・山内・平） 長野県立こども病院・相澤健康センター・諏訪赤十字病院・松本協立病院・一之瀬脳神経外科病院・安曇野赤十字病院・松本市立病院・まつもと医療センター（山内） 12週間の臨地実習後に授業アンケート、臨地実習終了試験を行う（日程・教室は後日連絡）			
授業の進め方	3 - 4名の小グループにより、1 2 週間のローテーションで実習を行う。 授業計画の日程は第 1 グループの例である。ローテーション詳細計画は別途配布する。			
テキスト、教材、参考書	各専門科目に対応する教科書・参考書と臨床検査法提要を持参すること 臨床検査部実習の手引き（信州大学医学部附属病院臨床検査部）			
成績評価の方法	出席、実習態度、修了試験、レポート評価点を総合して評価する。 修了試験は、臨地実習の内容に関して選択式問題を出題するが、詳細は別途配布する。 実習態度とレポートの評価は全臨地実習指導者の評価を総合して判断する。			
成績評価の基準	各サイクルの出席《病気や就職試験など以外は、基本的に欠席は認めない》、実習態度（実習先の現場責任者からの評価）、修了試験（60%未満は不合格または保留）、レポート評価点（実習先の現場責任者からの評価）を総合して評価する。			

事前事後学習の内容	【事前学習】臨地実習は、これまで学んだ講義や実習の知識や技術を臨床の現場で応用することになる。講義や実習の内容を全て予習してから実習に望む。またピペット操作や分析機器操作の基本技術に不安が有る時は、技術的な復習をしておく。 【事後学習】講義内容や資料に基づき、教科書と照らし合わせて復習する。関連したキーワードは、インターネットなどで検索して、理解を深める。インターネットにテキストが豊富に用意されているので、自分に適した教材を用いて理解を深める。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	3年次終了時に配布する各専門科目に対応する臨地実習前の到達目標をクリアしておくこと、実習後の到達目標（4月に配布）をしっかりと理解すること。 予習・復習をしっかり行い、実習指導者に迷惑をかけない。 スマホやタブレットは実習時には持ち込めないので注意すること。 担任（山内：yamauchi@shinshu-u.ac.jp）